

世界史

【第1問】中央ユーラシアに関する次の文章 A と B を読み、下の問い（問1～10）に答えなさい。

A

中央ユーラシアの草原地帯では、(a)遊牧民が、季節ごとに移動しながら生活していた。遊牧民の住居は、移動が簡単な組み立て式の家である（ア）が用いられた。文献上で知られる最初の遊牧国家は、紀元前7世紀頃に黒海北岸の草原地帯を支配した（イ）である。その後、中央ユーラシア東部でも騎馬遊牧民の間に統合の動きが始まり、モンゴル高原に(b)匈奴が現れた。前3世紀末に匈奴の君主に即位した（ウ）は、西では中継貿易で利益を上げていた月氏を攻撃して中央アジアのオアシス地域を支配下におさめ、東では成立まもない漢を圧迫した。

問1 下線部(a)遊牧民に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適切なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

X：遊牧民の家畜は羊のみで、他の動物は決して飼育されなかった。

Y：前9世紀から前8世紀頃には青銅製の馬具や武器をつかっていた。

- ① X：正 Y：正
- ② X：正 Y：誤
- ③ X：誤 Y：正
- ④ X：誤 Y：誤

問2 空欄（ア）に入る語句として最も適切なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① モンスーン
- ② バガトゥル
- ③ バートル
- ④ ゲル

問3 空欄（イ）に入る語句として最も適切なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ① アッシリア
- ② ギリシア
- ③ オリエント
- ④ スキタイ

問4 下線部(b)匈奴に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

X：匈奴は漢の攻勢を受けて、前1世紀半ばに東西に、後1世紀半ばに南北に分裂した。

Y：司馬遷が著した『史記』には、匈奴の姿は描かれていない。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

問5 空欄（ウ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

① 仏図澄

② 冒頓単于

③ 鳩摩羅什

④ 陶淵明

B

雪解け水による河川や地下水を利用できる(c)中央アジアのオアシスは、都市部と周辺の農村部からなる独立した生活・経済圏であった。高温・乾燥のきびしいところでは、水の蒸発を避けるため地中に掘った地下水路（エ）が重要とされた。

パミールの東部ではタリム盆地周縁部、西部ではソグディアナなどに(d)オアシス都市が点在し、ラクダに荷を載せた隊商がユーラシアの東西を往来するオアシスの道を形成した。これは（オ）と合わせて、(e)絹の道（シルク＝ロード）と呼ばれる。

問6 下線部(c)中央アジアのオアシスに関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

X：周辺国との交易を円滑に進めるため、都市部には防御施設は存在していなかった。

Y：手工業生産と隊商交易の拠点であった。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

問7 空欄（エ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①カナート（カレーズ）
- ②カタコンベ
- ③ジググラト
- ④チャンド＝バオリ

問8 下線部(d)オアシス都市に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

X：オアシス都市は大きな連合国をつくり、周辺大国の支配下には収まらなかった。

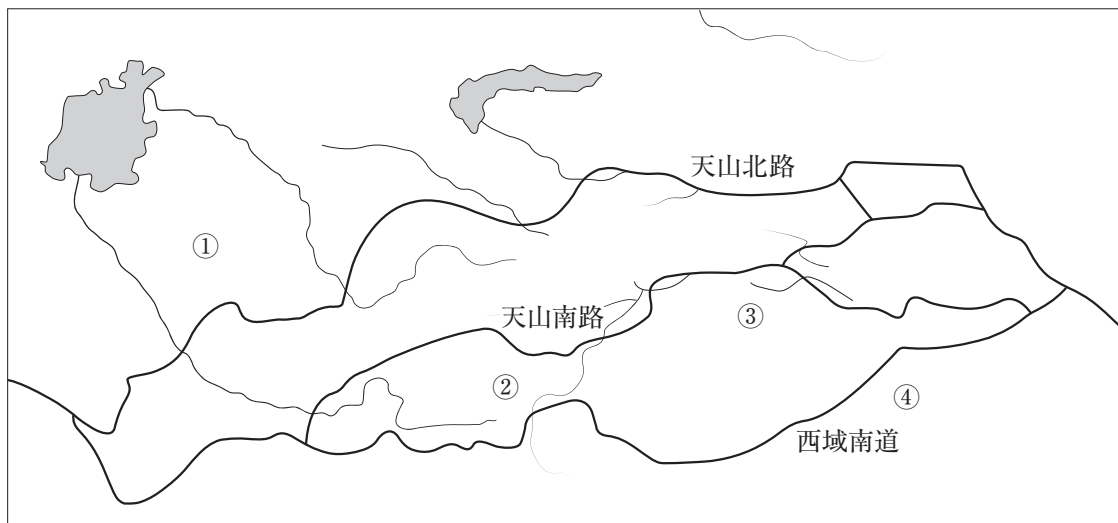
Y：オアシス民は遊牧国家による略奪や支配を受けており、両者は常に敵対的であった。

- ① X：正 Y：正
- ② X：正 Y：誤
- ③ X：誤 Y：正
- ④ X：誤 Y：誤

問9 空欄（オ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①王の道
- ②草原の道
- ③アッピア街道
- ④アジア航路

問10 下線部(e)絹の道に関連して、タリム盆地の位置として最も適当なものを、地図の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。



【第2問】産業革命に関する次の文章 A と B を読み、下の問い（問1～10）に答えなさい。

A

イギリスでは、(a)17世紀に華やかな模様の綿織物が輸入され、人気商品となった。18世紀初めにはその輸入が禁止されたが、原料の綿花を輸入して国内で生産しはじめた。とくに七年戦争後には、綿織物の輸出をその一環とする（ア）を大西洋で展開していた。

18世紀後半のイギリスでは(b)技術革新が生まれ、産業革命が始まった。最も重要な技術革新は、炭坑で用いられた(c)蒸気機関の製造業への転用である。また、18世紀には、（イ）によって農業生産が拡大し、大量の非農業人口を養えるようになり、都市化が促進された。

問1 下線部(a)17世紀にイギリスに輸入された綿織物に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

X：綿織物の輸入は主要工業だった毛織物業に打撃を与えた。

Y：主に中国産の綿織物が輸入された。

- ① X：正 Y：正
- ② X：正 Y：誤
- ③ X：誤 Y：正
- ④ X：誤 Y：誤

問2 空欄（ア）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①絹馬貿易
- ②勘合貿易
- ③三角貿易
- ④朝貢貿易

問3 下線部(b)技術革新に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

X：ジョン＝ケイの発明した飛び杼は、「交通手段」に関する技術革新である。

Y：18世紀には、紡績機や織布機に応用できる技術は、全く発明されなかった。

- ① X：正 Y：正
- ② X：正 Y：誤
- ③ X：誤 Y：正
- ④ X：誤 Y：誤

問4 下線部(c)蒸気機関に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 14

X：新しい機械の導入は多額の資金を必要とせず、1つの工場当たりの生産量は急増した。

Y：蒸気機関は、19世紀前半には鉄道や船舶にも用いられて、交通革命をもたらした。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

問5 空欄（イ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 15

①農業革命

②価格革命

③科学革命

④商業革命

B

この頃には、資本をもつ経営者である(d)資本家が賃金労働者を(e)工場で雇用し、利益の拡大を目的に他の資本家と競争する経営形態が登場した。産業革命は、一連の技術革新と経営・労働形態の変革による生産力の増大であり、その結果、(ウ)と呼ばれる経済体制が確立した。

イギリスは、産業革命によって綿製品の大量生産が可能になると、その販売のための新たな市場と、原料の供給地が必要となり、(f)世界経済の再編成に乗り出した。イギリスは、公式な植民地とはならなかった国々に対して、貿易協定や不平等条約を結び貿易を強制していた。イギリスは当時世界最大の工業生産国となり、(g)世界の工場と呼ばれた。

問6 下線部(d)資本家に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 16

X：資本家の経営する工場では、主として職人の自律的な作業がなされていた。

Y：機械の都合に合わせた労働形態により、賃金労働者の家庭と職場は分離された。

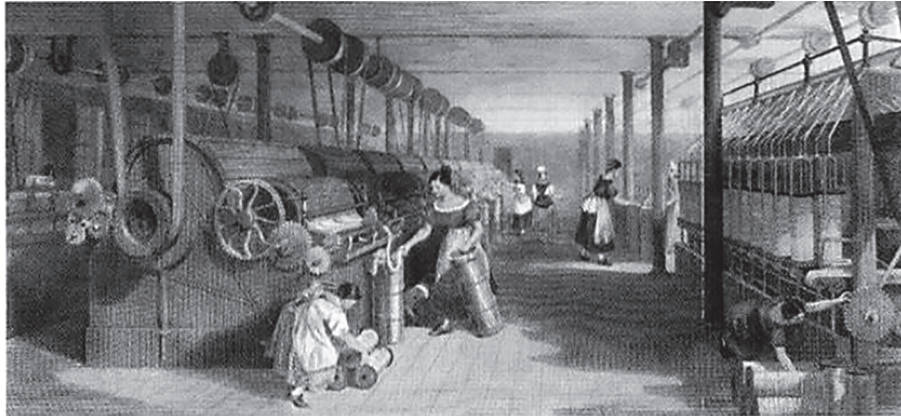
① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

問7 下線部(e)工場に関連し、1840年の紡績工場について描かれた絵の説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。



X：機械の操作に高度な技術を必要とした。

Y：女性や子どもが低賃金で多く雇われた。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

問8 空欄（ウ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

①重商主義

②合理主義

③社会主義

④資本主義

問9 下線部(f)世界経済の再編成に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

X：インドは綿製品の輸出市場とされ、在来の綿織物業が衰退した。

Y：イギリスは自由貿易の要求を強め、三十年戦争を引きおこした。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

問10 下線部(8)世界の工場に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 20

X：イギリスは19世紀初めに工業機械の輸出を解禁した。

Y：産業革命は19世紀前半にはイギリスのみに留まり、他国には決して波及しなかった。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

【第3問】 冷戦の展開に関する次の文章 A と B を読み、下の問い（問1～10）に答えなさい。

A

1940年代末から50年代にかけてアメリカ合衆国は、(a)北大西洋条約機構（NATO）以外にも、社会主義陣営を包囲するように世界の諸地域に軍事同盟を構築した。まず、1948年に中南米諸国とともに（ア）を発足させた。ついで、1951年にオーストラリア・ニュージーランドと（イ）を締結し、1954年には東南アジア条約機構（SEATO）を発足させた。翌1955年には、トルコ・イラク・イラン・パキスタン・イギリスからなる、（ウ）も発足した。また合衆国はこれらの同盟を補完する(b)二カ国間条約を締結した。

問1 下線部(a)北大西洋条約機構（NATO）に関連し、その1949年時点における加盟国として誤っているものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①イギリス
- ②スイス
- ③フランス
- ④カナダ

問2 空欄（ア）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①ワルシャワ条約機構
- ②バグダード条約機構（中東条約機構〈METO〉）
- ③米州機構（OAS）
- ④太平洋安全保障条約（ANZUS）

問3 空欄（イ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①ワルシャワ条約機構
- ②バグダード条約機構（中東条約機構〈METO〉）
- ③米州機構（OAS）
- ④太平洋安全保障条約（ANZUS）

問4 空欄（ウ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①ワルシャワ条約機構
- ②バグダード条約機構（中東条約機構〈METO〉）
- ③米州機構（OAS）
- ④太平洋安全保障条約（ANZUS）

問5 下線部(b)二カ国間条約に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 25

X：1951年に日米安全保障条約を締結した。

Y：1951年にフィリピン、1953年には韓国と相互防衛条約を結んだ。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

B

1950年代以降の西欧諸国では、アメリカ合衆国に対する自立性を取り戻すために地域統合の必要性が強く認識された。1952年には、フランス・西ドイツ・イタリア・ベネルクス3国は、石炭・鉄鋼資源の共同利用を目指す（エ）を発足させた。1967年には(c)ヨーロッパ共同体(EC)が設立され、主権国家の枠を超えた西欧統合の基礎がつけられた。

日本は朝鮮戦争中に国連軍への物資供給などによって経済復興のきっかけをつかんだ。この頃からは、日本でも(d)高度経済成長が始まったが、1960年の日米安全保障条約の改定をめぐって、激しい国内対立も発生していた。ソ連では、1953年にスターリンが死去すると、外交政策の見直しが始まった。1956年2月、ソ連共産党第20回大会で（オ）第一書記は、後にスターリン批判と呼ばれる演説をした。ソ連の政策転換は(e)雪どけと呼ばれて、東欧諸国に衝撃を与えた。

問6 空欄（エ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 26

①ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体（ECSC）

②ヨーロッパ経済共同体（EEC）

③ヨーロッパ原子力共同体（EURATOM）

④ヨーロッパ自由貿易連合（EFTA）

問7 下線部(c)ヨーロッパ共同体 (EC) に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

X：イギリスは1973年にヨーロッパ共同体 (EC) に参加を希望したが、認められなかった。

Y：ヨーロッパ共同体 (EC) は、1967年に3つの共同体が合併して設置されたものである。

- ① X：正 Y：正
- ② X：正 Y：誤
- ③ X：誤 Y：正
- ④ X：誤 Y：誤

問8 下線部(d)高度経済成長に関し、先進国の平均経済成長率 (%) が記載された表を踏まえて、日本の1950年～1973年の平均経済成長率 (%) の値として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

期間 国名	1900～13	1913～50	1950～73	1973～87	1987～91
西ドイツ	3.0	1.3	5.9	1.8	3.7
フランス	1.7	1.1	5.1	3.0	3.0
イギリス	1.5	1.3	3.0	1.6	1.3
イタリア	2.8	1.4	5.5	2.4	2.7
日本	2.5	1.8		3.7	4.9
アメリカ	4.0	2.8	3.7	2.5	1.9

- ①1.1
- ②3.0
- ③5.9
- ④9.3

問9 空欄 (オ) に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①ブレジネフ
- ②ゴルバチョフ
- ③チャウシェスク
- ④フルシチョフ

問10 下線部(e)雪どけに関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 30

X：ソ連は、西側との平和共存を掲げて、コミンフォルムを解散した。

Y：1956年のソ連共産党第20回大会では、スターリンが発表した四月テーゼを批判した。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

【第4問】現代の東アジアに関する次の文章 A と B を読み、下の問い（問1～10）に答えなさい。

A

1978年に中国の指導権を握った（ア）は、経済発展が急務と考えて、(a)改革開放政策を推進した。1990年代に入ると、中国では国営企業改革が進み、民間企業の意欲的な経営によって経済発展が見られた。中国は1997年に（イ）から香港を返還され、一国二制度の原則の下で、香港の資本主義制度を維持することを約束した。さらに21世紀に入ると、中国は（ウ）に加盟し、繊維製品だけでなく電化製品なども輸出する(b)輸出大国になるとともに、世界有数の巨大市場として期待されるようになった。

問1 空欄（ア）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①鄧小平
- ②毛沢東
- ③蔣経国
- ④李登輝

問2 下線部(a)改革開放政策に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

X：日本やアメリカ合衆国・西ヨーロッパ諸国からの先進技術の導入を禁じた。

Y：1992年の南巡講話では、中国南部を巡回して経済発展の重要性が訴えられた。

- ① X：正 Y：正
- ② X：正 Y：誤
- ③ X：誤 Y：正
- ④ X：誤 Y：誤

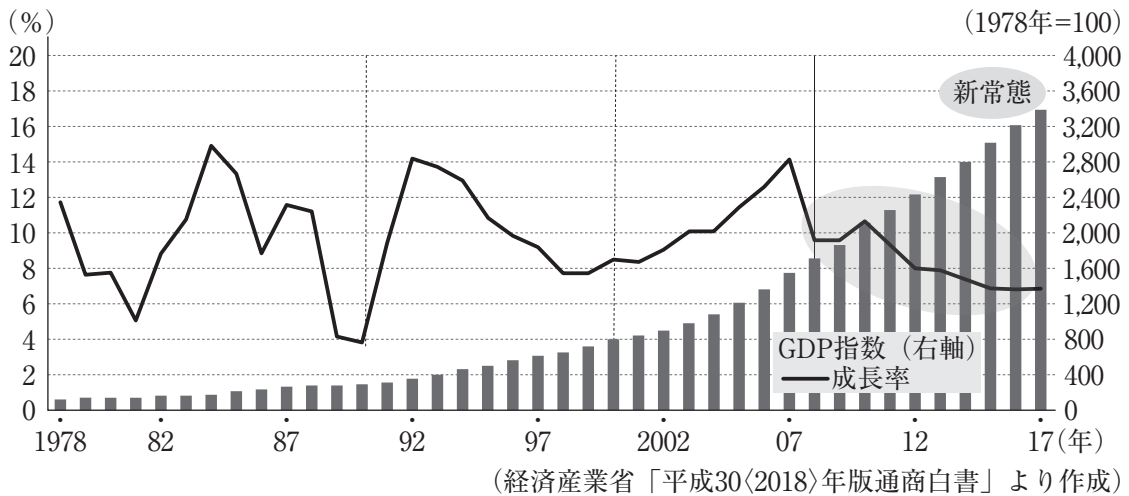
問3 空欄（イ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。

- ①日本
- ②イギリス
- ③アメリカ合衆国
- ④ソ連

問4 空欄（ウ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 34

- ① 東南アジア諸国連合（ASEAN）
- ② 経済協力開発機構（OECD）
- ③ 北米自由貿易協定（NAFTA）
- ④ 世界貿易機関（WTO）

問5 下線部(b)輸出大国に関して、図「中国のGDP（国内総生産）と経済成長率」の説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 35



X：中国のGDPは、1978年から2000年までは増加したが、その後減少している。

Y：1990年代の中国の経済成長率には、まったく変化がみられない。

- ① X：正 Y：正
- ② X：正 Y：誤
- ③ X：誤 Y：正
- ④ X：誤 Y：誤

B

韓国では、1980年代、光州事件などで民主化を求める民衆が弾圧された。1987年には再び民主化運動が高まり、全斗煥大統領から後継者に指名されていた盧泰愚は(c)民主化宣言を発表して、大統領の直接選挙をおこなうことを約束した。

北朝鮮では、経済が停滞するなか、1994年に金日成が死去すると、(d)金正日が権力を握った。北朝鮮では、ソ連が消滅して社会主義政権の正当性が危機に直面したが、金正日が体制の維持につとめた。北朝鮮は、(e)核兵器の開発を進めている国の一つである。

韓国と北朝鮮は、軍事的に対峙するとともに、経済力においても競争を展開した。外交面では、両国共に1991年に（オ）に加盟して、その後には(f)南北首脳会談が実現した。

問6 下線部(c)民主化宣言に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適切なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 36

X：盧泰愚は選挙で勝利し大統領となった後、野党陣営を全く取り込まず政権を運営した。

Y：韓国では1993年以降には、軍人出身ではない大統領が続いている。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

問7 下線部(d)金正日に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適切なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 37

X：金正日の在任年は1997年から2011年までである。

Y：2002年、日本の小泉純一郎首相は訪朝をめざしたが、最終的には訪朝していない。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

問8 下線部(e)核兵器に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 38

X：北朝鮮が核兵器の開発に着手したのは、金日成の死後、金正日の時代からである。

Y：1994年、北朝鮮はクリントン政権との交渉を経て、一旦は核兵器の開発を凍結した。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤

問9 空欄（オ）に入る語句として最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 39

① アジア＝ヨーロッパ会合（ASEM）

② 環太平洋パートナーシップ（TPP）協定

③ 国際連合（UN）

④ アジア太平洋経済協力（APEC）会議

問10 下線部(f)南北首脳会談に関する説明 X と Y について、その正誤の組合せとして最も適当なものを、次の①から④の中から一つ選び、番号で答えなさい。 40

X：南北首脳会談が実施されたのは、2000年である。

Y：南北首脳会談には、北朝鮮からは金正日、韓国からは金大中が参加した。

① X：正 Y：正

② X：正 Y：誤

③ X：誤 Y：正

④ X：誤 Y：誤